

[活動報告]

19世紀学学会活動報告(2013年度)

2013年11月30日(土)	学術講演会* <ul style="list-style-type: none">●唐権 (華東師範大学副教授) 「『培種』の道 - 『吾妻鏡(ウチジン)』と明治日本の開化セクソロジー」
2013年12月2日(月)	学術講演会* <ul style="list-style-type: none">●伊藤博明 (埼玉大学教養学部教授) 「イコノロジーの誕生 - アビ・ヴァールブルク (1866-1929) と美術史の転換」●根占献一 (学習院女子大学国際交流文化学部教授) 「パトヴァ大学とレーゲンスブルク対話間のガスパロ・コンタリーニ」
2013年12月6日(金)	学術講演会* <ul style="list-style-type: none">●安村典子 (元金沢大学大学院人間社会環境研究科教授) 「『ゼウスの部屋に置かれた二つの瓶』の話をめぐって - 『イリアス』第24歌に語られる死生観」
2014年3月8日(土)	アタナシウス・キルヒャーシンポジウム* <ul style="list-style-type: none">●伊藤博明 (埼玉大学教養学部教授) 「キルヒャーとエジプトマニア」●坂本貴志 (立教大学文学部教授) 「イシスとキルヒャー」●前田良三 (立教大学文学部教授) 「キルヒャーと可視性のメディア」●桑原聡 (新潟大学人文学部教授) 「キルヒャーとKunstkammer」
2014年3月10日(月)	学術講演会「越境する思想・異郷者の詩 - 声と知のトランスレーションへ」** <ul style="list-style-type: none">●Pierre Laforgue (ボルドー第3大学教授) 「言語、声、ポエジー - エメ・セゼールの『帰郷者ノート』におけるパロールの詩学と政治」●Ann Thomson (欧州大学院教授) 「精神史とは何か - 新たなアプローチと方法」

<p>2014年3月13日(木)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●通訳 逸見龍生（新潟大学人文学部准教授） <p>学術講演会*</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Kamila Szczepanska（ルール大学ボッフム東アジア学部講師） 「第二次安倍政権の教育改革と日本における文化的記憶の形成について」
<p>2014年3月17日(月)</p>	<p>学術講演会*</p> <ul style="list-style-type: none"> ●木村直恵（学習院女子大学国際文化交流学部准教授） 「〈SOCIELTY〉と「社会」とのあいだー明治期日本における〈社会〉概念形成」 <p>* 新潟大学人文社会・教育科学系、人文学部、「19世紀学研究所」と共催</p> <p>** 新潟大学人文社会・教育科学系、人文学部、「19世紀学研究所」、および「〈声〉とテキスト論研究センター」と共催</p>